

九重山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

平成7年10月30日

気 象 庁

大分県九重山の星生山東山腹で、10月11日から始まった噴火活動は、噴煙の噴出量も次第に低下し、火山灰の噴出も止まった。

その後強化された各種の観測によれば、数は少ないながら硫黄山直下浅部を震源とする微小地震の活動が続いている。地殻変動と電磁気には顕著な変化はないが、星生山周辺で若干の縮みが見られる。

このように、火山活動は引き続き低いレベルにあるが、現在も高温の火山ガスが多量に噴出を続けている。

引き続き、今後の火山活動に注意してください。

桜島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

平成7年10月30日

気 象 庁

桜島の南岳山頂では、8月24日に比較的規模の大きな連続的噴火が発生し、降灰は九州北部に及んだ。また、10月27日から28日にかけても顕著な降灰を伴う噴火が起きた。これらの噴火による火山灰などの噴出量は各々数十万トンと見積もられる。

この規模の噴火は、1992年以前に年に何度か見られた。桜島は1955年以来爆発的な噴火を繰り返してきたが、ここ数年、爆発の頻度は相対的に低かった。

地殻変動観測（地盤変動測定）によると、1992年頃から上下変動は沈降から隆起に転じており、最近の噴火活動の低下に対応して、地下マグマの蓄積が進行していることが示唆される。

今後とも、噴石や多量の降灰をもたらす爆発が繰り返される可能性が高いので注意が必要である。